

本説明書は施工前に必ずお読み下さい。施工後には御施主様にお渡しください。

楽lock S・P・C® flooring 施工説明書

(対象品番：RL71～RL74)

1. 施工時の注意



本製品はピースのサネ嵌合のみで連結し、それによって部屋全体の床が一枚板のように一体化する床材です。以下の注意事項を必ず守って施工してください。

- ①下地に不陸がないことを確かめください。不陸がある場合、嵌合部の段差が発生し、サネ割れや床材破損の原因となります。
- ②室温の変化に伴い、床材には微小な伸縮が生じ、部屋全体に影響します。床材と突き付けになる壁際・柱際・サッシ際・後付け仕切り壁・什器設置際などとの間には、この伸縮を吸収するためのエキスパンション(3mm以上のクリアランス)を必ず設けてください。
- ③床材を下地に固定するための接着剤や止めビス、ステープル等は絶対に使用しないでください。貼り終いや出隅・入隅などで床材をカットして施工する場合も、ビスやステープル等で下地に固定しないでください。
- ④床材の施工距離が長い場合、突き上げやサネ割れが起こる場合があります。縦継ぎ長さおよび横継ぎ長さが10m以上になる場合は、途中に必ず専用のT型見切り縁を使用してください。
- ⑤施工中および施工後は室温や床材の表面温度が40℃以上にならないようご注意ください。

2. 施工前

- ・施工前に、受け取った製品に割れや傷等がないことを確かめください。
- ・原則として、施工後の返品や交換には応じかねます。
- ・未開封の箱は常に水平な場所に保管してください。長時間の立てかけ保管は避けてください。
- ・商品の運搬や一時的な立てかけの際、商品の角部分が破損しないよう丁寧に取り扱いってください。
- ・本製品は屋内での使用のみを目的としており、床材としてのみ使用してください。
- ・施工前および施工中に、すべての床材に目に見える欠陥や損傷がないか調べてください。
- ・損傷した床材を取り付けしないでください。目に見える欠陥があるまま施工された場合、床材に対する責任は負いかねます。
- ・美しい仕上がりにするため、施工時には一度、仮並べて仕上がりや美観を確認してください。
- ・本製品の施工は置き敷き工法です。決して下地に釘打ちや接着剤を塗布しないでください。

3. 設置個所の条件 / 下地の準備

下地には、ほこり、塗料カス、ワニス、ワックス、油、硬化シーラー、その他の異物がないようにします。既存の床材施工時の糊残りはできる限り取り除いてください。また、下地に不陸がないことを確かめください。

●不適切な下地

下地の過剰な水分は、カビの発生・繁殖など水分による問題が発生する可能性があり、不健康な室内環境の一因となり得ますので、避けてください。また、クッションフロア、アスファルトベースのフロア、カーペット、直貼り防音フロア、接着剤不要のフロア、薄板または二重床下地には直接施工しないでください。コンクリートの上に直接施工する場合、構造的な不具合や不陸を補修してから施工してください。

●木質下地(木構造)

12 mm以上の合板及びパーティクルボード(二重床下地を除く)を下地に使用できます。二重床を施工する場合はベースパネルの上に12 mm以上の合板を捨貼りしてください。その場合、合板・パーティクルボードのジョイント部分に段差がないことをお確かめください。

●重ね貼り

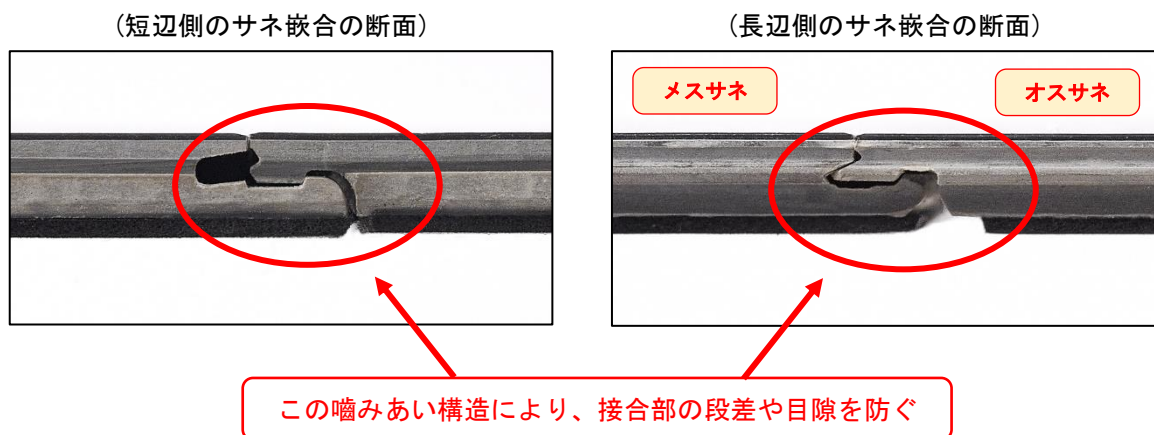
既存の床材に不陸や弾力性がある場合は、本製品を重ね貼りしないでください。

●石膏ボード下地

床材用の石膏ボード下地の上に置き敷き床として使用することができます。その際、ジョイントに不陸がないことをお確かめください。

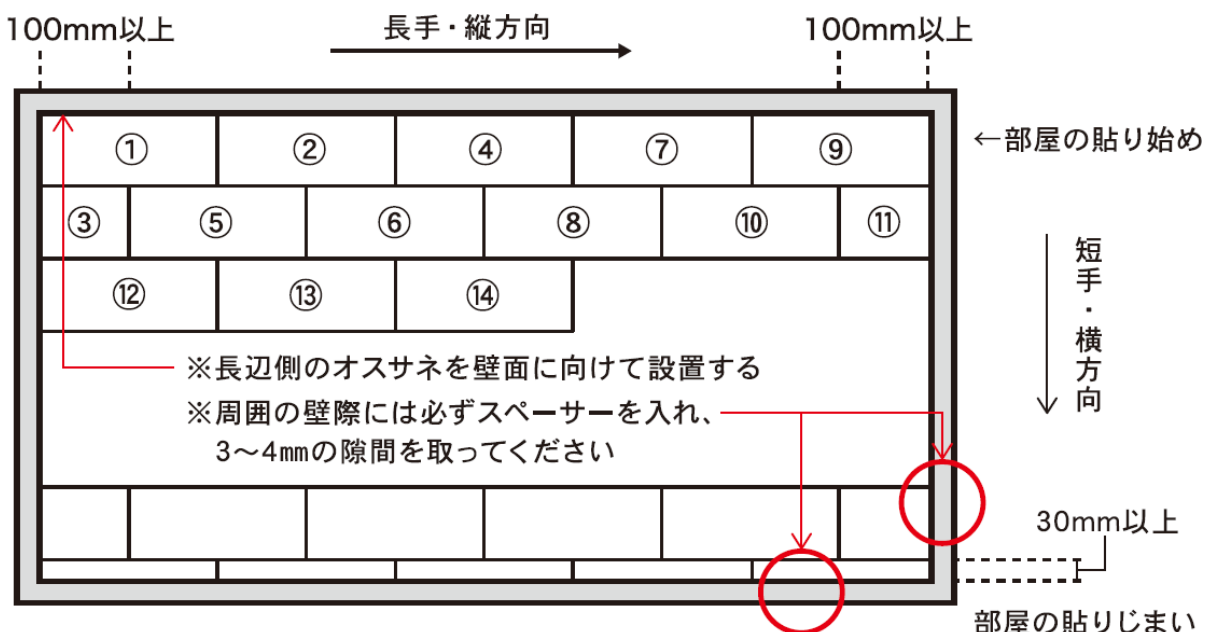
4. サネの構造と注意点

本製品のサネは下図のような構造になっています。短辺・長辺共に上下のサネが噛み合うことにより、糊釘無しで固定する構造となっています。嵌合部は精緻な構造になっていますので、強い衝撃を与えないでください。



5. 施工

①割付



※①~⑭はフロアを施工する順番です。

- ・まず最初に、床材を取り付ける方向を決めます。本床材を貼り始める前に部屋の内法を測り、縦方向の貼り始め及び貼りじまいが100mm以下、横方向の貼りじまいが30mm以下にならないように割付をしてください。
- ・もし、横方向の貼りじまいが30mm以下になる場合は、貼り始めの1列目の幅をカットして調整してください。
- ・縦方向の貼りじまいが100mm以下になる場合は、列の最初の1枚目をカットして調整してください。各列の最初と最後の床材は少なくとも100mmでなければなりません。鋭利な万能ナイフと直角定規を使って表面に線を入れて折るか、丸鋸やスライドカッターを使ってカットしてください。フロアは303mmずらしたレンガ貼りをお勧めします。
- ・部屋の周囲とすべての壁や建具等の周囲には、**最小3mmの隙間(エキспанション)**が必要です。そのため、床材の短辺・長辺と壁の間には**必ず3mm~4mmのスペーサーを配置**してください。

②貼り始め

- ・本床材の縦繋ぎは正確に一直線に施工することが重要です。そのため貼り始めの1列目の基準線は、**墨打ち**して決めることをお勧めします。
- ・貼り始めの1列目は、最初の1枚目(割付図の①)は長辺側の**オスサネを壁面**に向けて左端に置き、2枚目(割付図の③)以降は短辺側のサネ部分を手前から水平にスライドさせて差し込んでください。
- ・2列目以降は、長辺側サネを先に差し込んで手前側を4~5cm持ち上げた状態で、短辺側のサネが当たるまで横にスライドさせたのち、ゆっくりと下ろし、嵌合部分の表面が重なっていないことを確認してから、親指で「**カチッ**」と音がするまで押し込んでください。
- ・貼り始めの1列~3列目までの貼り精度が全体の仕上がりに影響を与えますので、最初の縦継ぎが一直線になるよう丁寧に貼ってください。特に縦継ぎが長い場合は1列ずつ貼るのではなく、3列目までは前図のような順番での施工をお勧めします。
- ・床材の縦継ぎ長さが10m以上になる場合は、必ず途中に専用の「T型見切り縁」を入れて下さい。

③サネ嵌合のコツ

- ・長辺側の嵌合は**接合部に隙間が無いよう**施工することが重要です。長辺のメスサネ側を**当て木**で横から軽く叩くと、うまく嵌合できます。わずかでも隙間があると、短辺側のサネが完全に噛み合わず、サネ折れや損傷などの原因となる場合があります。
- ・**短辺側のサネ内部の黒いバネが浮き出ている場合、カチッと鳴らず、嵌合できません。爪で軽く押し込んでから嵌合させてください。**
- ・サネの溝部分にゴミ等が付着していると「カチッ」と音がせず、正確に嵌合できませんので、手順をさかのぼり、一旦取り外して丁寧にゴミ等を取り除いたうえ、もう一度やり直してください。

※短辺側のサネをゴムハンマー等で無理に叩き込むとサネが損傷し、施工後に浮き上がってきますので、注意してください。

④貼り終い

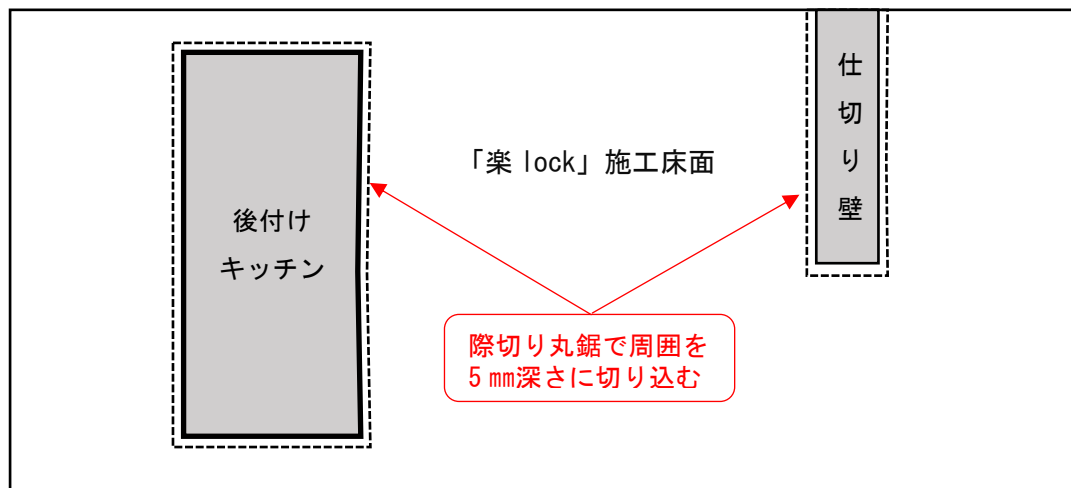
- ・列の最後の床材はカットする必要があります。壁と最後の床材の表面との間の距離を測定し、測定値からスペーサー分(3mm)を引いた幅にカッターや丸鋸、スライドカッター等でカットして貼ってください。
- ・YouTubeにて、クローゼット等の狭い箇所の貼り終い施工動画を公開しております。



【床先貼り工法の場合】

マンション等で床材を先貼りし、仕切り壁やキッチンユニット等を後から施工する場合、これらと床材を固定した後、その周囲の床材を「際切り丸鋸」で5mm深さに切り込んで隙間(エキスパンション)をとってください。この隙間は、化粧巾木または専用造作材を施工したり、シリコンコーキング等で処理することで美しく仕上がります。

〔床先貼り工法の処理イメージ〕



6. 施工終了

- ・すべて貼り終わったら、部屋の周囲からスペーサーを取り外します。
- ・つぎに化粧巾木を取り付けます。3mmのスペース(隙間)をカバーするのに十分なサイズのものを選定し、床材側でなく、壁側に固定してください。

7. 作業要領図

◆サネのはめ方



1. 長辺からはめ込む。



2. 相手側の短辺に当たるまでスライドさせ、ゆっくり落と



3. 長辺を当て木で軽く叩く。



4. 嵌合部分の表面が重なっていないことを確認する。



5. 短辺の両端を親指で「カチッ」と音がするまで押し込む。



注意！
サネをハンマー等で無理に叩き込むとサネが損傷します。

※短辺側のサネ内部の黒いパネが浮き出ている場合、爪で軽く押し込んでから嵌合させてください。

◆サネの外し方

一旦嵌合させたものを外す場合、まず初めに**長辺側の列のすべてを斜めに持ち上げてゆっくりと手前に引き**、長辺側のサネを外してください。そのあとで、短辺側のサネを前後にスライドさせて外します。



1. 必ず長辺から外し始める。



2. 両手で板を持って板が外れるまでそっと持ち上げる。



3. 床にそっと置く。



4. 短辺側を外すには、双方の板を**反対方向にゆっくりとスライド**させる。

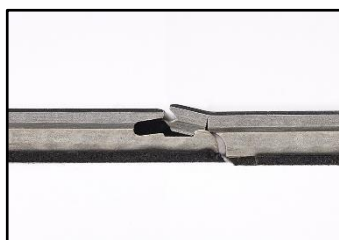


5. スライド中は、ねじれないように板を軽く押さえ、必ず**平行にスライド**させる。



6. 完全に外れるまで、平行にスライドさせ続ける。

※注意！ 下図のように床材を持ち上げて外すとサネが折れますので、十分注意してください。



嵌合したまま短手を持ち上げないでください。

サネが折れた床材は施工しないでください。

8. 床暖施工

本製品は、床暖房の仕上げ材としてもご使用できますが、以下のような注意事項を遵守して施工及びご使用ください。

《施工仕様＆使用条件》

床暖方式	温水マット方式（小根太付き） （※電気フィルム式およびコンクリート直埋式ヒーター方式には使用出来ません）
床構造	断熱材 / 下地合板 / 温水マット / 合板 / S・P・C フローリング （※温水マットと床材の間に必ず 9mm 以上の合板を捨貼りしてください）
使用条件	給湯器の温水温度は 60℃以下に設定し、本床材の表面温度は 30℃以下で使用してください。

※床暖房によるフロアの熱伸縮がありますので、壁際には割り箸等のスペーサーを入れ、3mm～5mm の隙間を空けてください。

9. 使用上の注意事項

- ・ 重い家具や家電製品を移動するときは、合板を下敷きにして床材を保護してください。
- ・ 家具や椅子の脚の下には、床材を保護するシートやカバーを使用してください。
- ・ 床材の上に大きな家具を置くと、床材が下地に固定され、均等に伸縮するのを妨げ、側面または端部のはがれ、突き上げ、ズレ等の不具合が生じる原因となりますのでご注意ください。
- ・ 直射日光に長時間さらさないでください。変色や伸び、突き上げを起こす可能性があります。
日光が当たるピーク時には、室温や床材の表面温度が 40℃以上にならないようカーテンまたはブラインドの使用をお勧めします。
- ・ 床暖房を使用する場合、またストーブ等の暖房器具と併用する場合でも、床材の表面温度は 30℃を超えないようにご注意ください。
- ・ 床暖房の有無にかかわらず、石油ファンヒータや温風器を使用する場合は、床材に直接熱風が当たらないよう、カーペットやマットなどを敷いて保護してください。
- ・ ホットカーペットを使用可能ですが、ご使用の際は熱がフロア表面にこもらないよう、フロアとの間に市販の遮熱用保温シートを敷いてご使用ください。また、床暖房との併用は、異常過熱による不具合発生の原因となりますのでお避けください。

上記施工方法以外の施工方式及び使用方法によるトラブルや不具合については保証致しかねますので、ご注意ください。